

『ドクタークローズアップ』

耳鼻咽喉科 蠣崎 文彦 科長

DOCTOR

ドクター
クローズアップ closeup

函館中央病院耳鼻咽喉科科長

蠣崎 文彦氏



かきざき ともひこ

平成17年札幌医科大学医学部医学科卒業。

天使病院、北海道大学病院、北海道がんセンター、手稲溪仁会病院、砂川市立病院等を経て、平成25年北海道大学大学院に進学、国立がん研究センター研究所に2年間勤務。

平成27年以降は北海道大学病院や市立旭川病院、北海道がんセンターに勤務。平成30年4月函館中央病院耳鼻咽喉科科長に就任、現在に至る。

日本耳鼻咽喉科学会専門医

函館中央病院の耳鼻咽喉科科長に就任

難しい頭頸部がんなど多くの種類の手術に実績

今年4月、函館中央病院（本橋雅壽病院長）の耳鼻咽喉科科長に就任したのが蠣崎文彦医師だ。札幌で生まれ、釧路で育った蠣崎医師は医師を志し、札幌医科大学医学部に進学した。

大学卒業後は、小児科医を希望して天使病院に勤務するが、「大学での実習で見た頭頸部がんの手術を振り返ることが多く、自ら診

断して自ら治療する点などの魅力も再認識し、耳鼻咽喉科の医師になる決断をしました」。平成19年北海道大学病院で耳鼻咽喉科医としてスタート。その後は北大病院を経て、北海道がんセンターや砂川市立病院、市立旭川病院などで診療実績を重ねてきた。平成25年北大大学院に進学後の2年間、国立がん研究センター

研究所に勤務。「副鼻腔乳頭腫と末梢循環腫瘍細胞の研究を行いました」。

函館中央病院の耳鼻咽喉科は医師3人体制で診療を行っている。函館・道南地区からの紹介患者が多い。

「当科で扱う疾病は耳、鼻、のどの病気のみならず、顔面神経麻痺、内耳性めまい、睡眠時無呼吸症候群、耳下腺、顎下腺といった唾液腺

の異常、頸部の腫瘍性病変などが含まれます。手術は滲出中耳炎に対する鼓膜チューブ挿入術、鼓膜穿孔の形成術、頭頸部がんなど種類の多い、突発性難聴などの急性感音難聴には、高気圧酸素療法やステロイド療法を実施しています」。

頭頸部には様々な器官が集まっていることから、ここに生じるがんも口腔がん、咽頭がん、喉頭がん、鼻腔・副鼻腔がん、唾液腺がん、甲狀腺がんなど多くの種類に分けられる。「頭頸部がんの割合はがん全体の5%

程度ですが、重部位が多いこと、さらにがんの発生した場所によってがんの性質や治療法が異なるなどの特徴があります」。蠣崎医師はこれまで頭頸部がんの手術を100例以上行ってきた。長い手術では15時間にも及ぶことがある。

「頭頸部がんの治療は手術や放射線療法が中心ですが、抗がん剤は、放射線治療の効果を1～2割向上させることがあり、近年分子標的薬も適応となるなど、治療の選択肢が広がっています。進行した頭頸部がんは北大病院を紹介することもあります。患者さんの希望がある場合などは、出来る限り地元で治療を完結するように努めています」。

診療科のトップである科長の就任は初めてとなる。「責任は重くなりますが、やりがいも感じています。耳鼻咽喉科領域の手術は頭頸部がんも含めて難しい手術が多いのですが、部下を育てていくことにも尽力していきます」。